

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 22 年度】

〔終了報告（外部競争資金）〕

	研究課題名	研究の概要	提案機関へのアドバイス
	主担当部署		
	研究期間		
7	<p>小型圧力センサ付試作品を用いた「製品の使いやすさ評価」に関する研究</p> <hr/> <p>ものづくり開発部</p> <hr/> <p>平成 21 年度 (1 年間)</p>	<p>現在のユニバーサルデザインによる製品開発では「握りやすさ」の定量化、数値化が求められており、この数値化手法の確立が急務となっている。本研究では、3次元造形機を用いて作成した試作品に小型圧力センサを多数取り付け、採取した圧力データ分布と従来方式の官能評価データ、手のサイズとの関係を明らかにすることにより、製品の使いやすさを評価する分析を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業支援のモデルがわかりにくい。用途開発も必要である。 ・適用分野を広げるためにも市場調査を行ってほしい。 ・福祉方面への研究として期待する。是非、福祉のまちづくり研究所との共同研究を期待する。 ・開発システムの応用例をもっと広く考えて探すことが必要である。開発したシステムの実用化を考えてほしい。 ・終了時に技術の売却先があるかどうか、費用回収をどう考えるか、それが大事な問題である。 ・技術をどのように利用するのか、またどのように発展させるのかを念頭に技術の広報とニーズ把握に努めてほしい。
8	<p>ユビキタスネットワークを活用した高齢者等の安心安全を確保する見守り空間創成に関する研究</p> <hr/> <p>情報技術部</p> <hr/> <p>平成 20～21 年度 (2 年間)</p>	<p>特定エリア内に設置したカメラ等の情報から、施設内を移動する人の行動により意図を推定し事故等を未然に防ぐ“見守り空間”を構築する技術を開発。実際、老人福祉施設に開発した機器を導入し、実用性についても検討した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大変有用なシステムの開発に成功したと判断される。ただ、システムを広く普及させるには、技術を越えた問題点も検討しておく必要がある。また、検知の確実性も確保し続ける必要がある。 ・今後具体的な適用が行われるが、どのようなリスクが伴うかを引き続き検討を行ってほしい。 ・事業展開として実例が挙がっており、今後の展開を期待する。もう少し実用化されてもよいのではないか。 ・共同研究相手先により既に実用化の目処が立っているようだが、得られた成果を活用する意味で、要素技術の他用途への応用等、より発展的な成果の利用を考えてはどうか。